

09

パーティービューロー

無垢の木材料による家具デザイン

PARTY BUREAU

The Design Method of Wooden Furniture

デザイン学科・教授

Department of Design・Professor

平光 無門 Mumon HIRAMITSU



家具の捉え方には、椅子やテーブルを脚物家具、書棚や食器棚を箱物家具という形態による分類の仕方がある。また機能による分類では、脚物家具は人体系家具であり、人が直接触れるなど人との関わりが深いことからインテリアの主役として扱われることが多いが、これに対して箱物家具は建築系家具で、インテリアにおいてはどちらかという背景となりがちで、壁と同化させて存在感をなくすこともある。

この家具は脚物でも箱物でもない家具としてデザインしている。収納とカウンターテーブルの両方の機能を持っている。上部はガラス扉の収納と緩やかな曲線を持つカウンターが共存し、下部は箱状の構造と丸脚が形の上でも、箱物と脚物の両面を持った家具であることを示している。さらに下台の両脇はワゴンであり、収納でありながら可動する脇テーブルの機能も合わせ持っている。

外形のイメージはカウンターの水平ラインを強調し、他の部分を縦のラインで構成することで、囲うようなかたちを避けて、むしろ外に向かうような印象とし、ディディールでは上棚の天板や下棚の地板の厚みを、扉と召し合わせることで薄く軽やかに見せている。

材料は栗の無垢材で仕上げはオイルフィニッシュ。木材は軸方向と放射接線方向で10倍ほどの収縮率の差がある。これを吸収するために、天板は吸い付き棧にしている。また上棚の側板は框組ではなく無垢板の2枚はぎにし、幅の広い雇いざねを鏡板のように見せて、端ばめでつなぐという方法で框組と同様に収縮率の差に対応している。またこれらの構成部材である吸い付き棧と端ばめの木口を正面のアクセントとしている。

Party Bureau

住宅にとっての大事な空間は、応接や居間から、ダイニングルームに変わってきている。コミュニケーションに「食」は欠かせない。プライベートな住空間においても、ファミリーパーティーなど、親戚、近隣、友人との豊かな時間を過ごすためのダイニングで、象徴でありよりどころとなるような食器収納家具はインテリアの主役となりうる。

無垢の木材料の触感で得られる温度や堅さは、無機材料と比べてはるかに人にやさしい。新しいころよりも、時間を経てしっかりと使い込むほどに価値を増す。幾代にも受け継げば、建築よりも永く愛される。

作り手の視点では、形作りの面で扱いやすく従順な材料が好まれるが、調度として家具を所有し永く使用する視点では、材料は形作り以上に大切である。

調度としての家具

調度と具は同義語である。平安時代に「調度」という言葉は、道具に近いニュアンスで使われていた。平安時代の道具に相当する言葉を「源氏物語」により調べると、調度という言葉は27度記載されているが、道具、指物、具足、物具などの言葉は記載されていない。また、桐壺の帖に「御装束一領、御髪上げの調度」とあり、行幸の帖には「御装束、御髪上の具」とあることから分かるように、「調度」と「具」は同義語として使われていた。ここでは雅やかなイメージと価値ある道具という視点で、この家具を調度として捉えたい。

栗材について

双子葉植物 離弁花類 ブナ科 クリ属 落葉高木 広葉樹。環孔材。別名シバグリ/ブナ科/クリ属/落葉広葉樹の中高木。気乾比重：0.55

辺材は狭く、褐色を帯びた灰白色。心材は褐色。材はタンニンを多く含み、年数が経つと徐々に濃くなり栗色から黒褐色に変化する。年輪は明瞭。

『桃・栗3年、柿8年』と言われているように比較的成長が早く、材は他のブナ科の木に比較すると、やや軽く柔らかい。適度な硬さもあり堅木の中では、加工性の良い木材である。環孔材なので、導管が荒く、はっきりとした木目を持っている。使い込むほどに独特の木目が美しく浮き出る。

タンニンを多く含むため、水湿性に強く、材の保存性が極めて高いため、主な用途は家具材、器具材、建築用の土台や枕木、湯殿板、船の舵など。特に芯材の耐朽性がきわめて高いことが栗材の最も大きな特徴である。栗材は4千年前の縄文時代から竪穴式住居?の主要構成材として使われていたことが発掘により多く確認されている。古くから日本の民家にも多用された木材であり、日本人にとって最も関わりの深い木材の一つである。

